

# 日本生体医工学会 2019 年度第 5 回理事会議事録

日時:令和 2 年 4 月 24 日(金) 14:00 ~ 16:25

会場:TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター カンファレンスルーム 105

## 出席者

理事長:木村 裕一

副理事長:守本 祐司、大城 理(兼関西支部長・遠隔出席)

理事:川田 徹(遠隔出席)、平田 雅之(遠隔出席)、松田 哲也(遠隔出席)、  
井村 誠孝(遠隔出席)、坂田 泰史(遠隔出席)、中島 一樹(遠隔出席)、  
成瀬 恵治(兼 2020 年大会長・遠隔出席)、松村 泰志(遠隔出席)、  
横澤 宏一(遠隔出席)、佐久間 一郎(兼関東支部長・遠隔出席)、  
椎名 毅(兼 2021 年大会長・遠隔出席)、中島 章夫、原口 亮(遠隔出席)  
福岡 豊(遠隔出席)、村垣 善浩(遠隔出席)

監事:吉田 正樹(遠隔出席)、中沢 一雄(遠隔出席)

<オブザーバー・出席者>

幹事:永岡 隆(遠隔出席)、京相 雅樹(遠隔出席)

事務局長:磯山 隆(遠隔出席)

オブザーバー: 芳賀 洋一(東北支部長・遠隔出席)、堀 潤一(甲信越支部長・遠隔出席)  
石原 謙(中国四国支部長・遠隔出席)、鈴木 亮一(北陸支部長・遠隔出席)

<欠席者>

理事:生田 幸士

監事:澤 芳樹

幹事:鷲尾 利克

## 0. 理事会成立の件, 議題 A, 大城副理事長

定款 34 条 2 項に則り、定足数 10 名を超える理事 18 名の出席、監事 2 名の出席(内 17 名はテレビ会議システムによる参加であり、参加役員は映像・音声について確認した)を確認したことから、本理事会は成立した。

## 1. 内閣府による立入り検査の報告と会務の継続性を確保するための理事監事候補推薦規定の改定, 議題 C, 木村理事長

2 月 3 日に第一回の内閣府の定例の立ち入り調査があった。磯山事務局長及び事務局の準備により、重大な指摘事項は無く、無事終了したことが報告された。

立入り調査では、査察官より会の現状や運営に対する詳細な説明を求められた。他の多くの公益法人では専任の職員が居り、会務や公益事業の運営を行っているが、当学会は事務局の業務を委託していることから、学会および学会が付託された公益事業の運営とその継続性を確認されたという印象を持った。

学会独自で事務局を持った場合、事務局の賃料や、専任の職員に対する人件費などで、年額で約

2,000 万円の支出が発生する。学会の運転資金として 6,200 万円ほどがあり、これを使い尽くした後は基金の取り崩しで対応することになるので、学会の財務は早晚破綻する。又、公益法人から一般法人に戻った場合、公益事業のために確保している 1 億 5,000 万円を、公益事業を継承する他の法人に譲渡する必要があり、2 億 5,000 万円ほどある資金の大半を失うこととなるので、やはり学会の財務が破綻する。

以上から、事務局業務を委託しつつ公益法人を継続するしかなく、従って、今後も定期的実施される立入り検査において、学会の運営が順調であることを主張し続ける必要があることが報告された。

これへの対策として、理事・監事の多選制限の緩和が理事長より提案された。

現在は理事を 2 期 4 年務めた理事は、1 年間は被選挙権を有さないこととなっているために、会務担当の継続性の確保を難しくしている。この規定は、特定のグループが理事を占有することなく、できるだけ広い範囲の方々が学会の運営に関わるようにするために、相当以前に規定されたものである。しかし、現在はこのようなことは起こっていない。

そこで、理事監事候補推薦規定を改訂し、理事・監事の多選制限を、現行の 2 期 4 年から 4 期 8 年に変更することが提案された。尚、理事・監事の任期は現在の 2 年のままで変更しないので、選挙による理事会の新陳代謝は維持される。

合わせて、理事会が会務に基づいた理事候補の推薦を可能とするように、理事監事候補推薦規定の改訂が提案された。

現在、支部間及び企業とアカデミズムとの間の理事の人数のバランスを理由とした、理事会からの理事候補の推薦が可能となっている。これに、会務の継続性を理由とした理事候補の推薦を追加する。

会務の円滑な運用に対する効果、会務運用の現状について議論が行われた結果、全会一致で承認された。

## 2. 理事・監事選挙結果報告, 議題J, 川田理事

2020・2021 年度の理事・監事選挙の結果が報告された。

記入内容に誤りがあったために無効票となった投票が 4 件あったことが報告された。

選挙結果については、全会一致で承認された。以上で、2020 年度の理事会を構成する候補者が定まり、これが 6 月の社員総会で承認されることで 2020 年度理事会が発足する。

今後は事務局から新理事監事候補に対して就任に対する承認を得るとともに、公益法人の関連法規で定められている欠格理由に該当しないことの誓約書を徴する。その後、6 月中旬に開催する社員総会に向けて、理事長候補を選出するために会議を 5 月中に Web 会議として開催することが説明された。

尚、Web 投票を導入したにもかかわらず、投票率が低下した点が問題として指摘されており、年度末に実施する代議員選挙では、投票率を向上するための方策が必要である。

## 3. 理事会推薦理事候補について, 議題 N, 木村理事長

守本副理事長及び中島一樹理事を、理事会推薦理事候補とすることが提案された。

守本副理事長は、ME 技術実力認定試験を主導しておられる。認定試験は生体医工学領域にある医療職である臨床工学技士の技術向上が目的であり、公益事業として重要である。加えて、認定試験からの収入は学会の重要な収入源でもある。更に、臨床工学士と関係が深い認定試験であることから、学会との連携強化を図ってきている臨床工学技士会との関係の強化を担当するに至適な人材であることをもって推薦が提案された。

中島一樹理事は、財務を担当しておられる。財務の健全化は学会の急務であり、その実現及び健全化された財務体制の定着のために、更に継続して財務を担当して頂くことが学会の運営に必要であることをもって推薦が提案された。

2 先生の推薦は、全会一致で承認された。

#### 4. 生体医工学誌の別刷りの一部廃止について、議題D-1, 横澤理事

掲載料を無料としている ABE の掲載論文が増加した結果、年額で 42 万円の支出増が予想される。そこで、この超過分を「生体医工学」に掛かる経費の削減で吸収する事が提案された。

これまで設定していた早期掲載について利用実績が無いことから廃止することで 24 万円を確保する。又、投稿及び依頼原稿の著者に対して贈呈していた別刷りを廃止することで 18 万円を確保するという提案であった。

議論の結果、掲載論文の別刷りは廃止することとなった。なお、著者が購入する別刷りについては従来通りなので、別刷りの入手性には問題は無い。

依頼論文については、従来通り別刷りを贈呈する。

#### 5. JST のコンサルティング終了報告、議題D-2, 横澤理事

JST 登録ジャーナル品質改善を目的として募集されたコンサルティング事業に ABE が採択された事から、ジャーナルの質の改善を専門としているオーストラリアの INLEXIO 社によるコンサルティングを受けていたが、これが予定通りに終了したことが報告された。

その中で特に、インパクトファクター(IF)の取得を目標として、投稿数を増やすために、Directory of Open Access Journal (DOAJ)への登録を進めている旨の説明があった。DOAJ への登録は、ハゲタカジャーナルではないことの証明であり、投稿数の増加に繋がる。<sup>1</sup>

IF の取得に向けた質問があった。多数の引用が期待できる良いレビューを掲載することに努めており、またクラリベイトアナリティクス社との協議を継続していることが報告された。

現在の被引用率は 0.8 であるが<sup>2</sup>、2.0 程度まで引き上げたいので、ABE に掲載された論文を積極的に引用していただくよう、依頼があった。また、ABE の広報活動を行う予定であることが報告された。

DOAJ 掲載のために取得した CC ライセンスが、掲載済みの論文に対して追加されるのかとの質問があったが、付与されないとのことである。

---

<sup>1</sup> 2020.7 末に DOAJ へ掲載された。

<sup>2</sup> 2020.8 の時点で、1.0 となった。

## 6. 第26回第1種 ME 技術実力検定試験の延期または中止について、議題F-1, 守本理事

6月21日(日)に実施予定であった ME 1 種試験は、COVID-19 の感染が拡大しつつあることから、この日の実施は不可能と判断しているという説明があった。又、中止か延期かは、ME 技術教育委員会(以下、委員会)で議論中であることが報告された。対応については5月初旬には決定予定とのことである。

9月に開催を予定している第2種 ME 技術実力検定試験についても、延期、中止について協議中とのことであった。現在は問題作成を始める段階であり、実施の可否判断のデッドラインは5月下旬であるとの説明があった。

延期、中止の場合には、計画より経費の追加が必要となる可能性が大きい点が指摘された。尚、中止の場合には、作成の経費は来年度必要ないこと、会場のキャンセル料等は発生しないことが確認された。

さらに、2020年度の ME1 種試験及び ME2 種試験の実施については、臨床工学技士養成校など他の組織との協議が必要であることから、委員会に一任する事が提案され、全会一致で承認された。

## 7. CE コーポレーション・学会間での覚書(案)について、議題F-2, 守本理事

ME 試験について業務委託している CE コーポレーションとの再契約時の覚え書きについて報告があった。

ME1 種の試験が中止になった場合の委託費について質問があり、試験の実施を前提とした作業が既に進行していることから、試験が中止の場合も零にはならないことが説明された。

試験が中止となった場合の条項を追加することとなった。

## 8. 第59回大会の準備状況、議題G, 成瀬理事, 佐久間理事

大会は、Zoom によるオンラインでの開催に変更した点が報告された、この旨を全会一致で承認した。

- 参加者は、参加費を支払い、パスワードを受け取ってアクセスする。
- 岡山コンベンションセンターはキャンセル済みで、キャンセル料は発生しない。
- タイムテーブル通りに開会式、特別講演などを Zoom 上の会場で実施する。
- Web 開催の会場を大会の部屋数と同数(7 会場)を確保し、オペレータを配置して実施し、ポスターセッションも Zoom を利用して開催(1 ポスターに 1 会議室)することを検討している。
- 高校生セッションの開催の可否は検討中である。
- 懇親会、ランチョンセミナー、共催セミナーは中止。
- 広告は Web 上に掲載し、機器展示は Zoom 上での広告等に置き換える方法を採用する。
- 若手のナイトセッションはオンラインで実施。
- 申し込み済でも、参加費を支払わない場合には、取り下げ扱いとなるとのことであり、会費の納入についてのアナウンスを行うこととなった。

同時開催の APCMBE2020 については、60 数件の申し込みがあることと、生体医工学会大会と同様にオンサイト開催となることが報告された。

APCMBE2020 に合わせて開催される予定だった IFMBE の理事会が中止となったことから、そこで議題となる予定の臨床工学技士会の IFMBE への加入審議は、別途開催される IFMBE 理事会で議題となる。

木村理事長より、参加者が減少する懸念があるが、Web 機材の経費増大、収入減の場合は学会が補填するので、大会の成功に注力を頂きたい旨の依頼が為された。

## 9. 2019 年度各賞応募・選定結果について， 議題L-1， 松村理事

荻野賞、論文賞、阪本賞、新技術開発賞、研究奨励賞・阿部賞の候補者について報告があった。審議の結果、原案通り、全会一致で承認された。

受賞の連絡及び賞状・賞金の送付は事務局が行う。又、学会の Web ページでも受賞者をアナウンスする。尚、例年行っていた受賞の挨拶は、来年の京都大会の中で行うこととなった。

## 10. 各賞選奨報告書について(2019-003)， 議題L-2， 松村理事

支部の選奨結果について報告があった。資料中の関東支部が実施した選奨の結果に関する文書において、受賞の対象者から除外した候補者に関する部分は削除すべきであるとの指摘があり、削除することとなった。その旨、関東支部若手研究者発表会 2019 選奨委員会委員長に依頼する。

## 11. 2020 年度第 43 回中国四国支部大会若手講演奨励賞， 議題L-3， 松村理事

支部大会における賞の申請について、資料に基づいて報告がされた。

## 12. 第 60 回大会の準備状況， 議題H， 椎名理事

京都大会の概要の説明が行われた。日本生体磁気学会との合同開催とする旨の提案があり、承認された。

大会においては、両学会の参加者が互いの学会大会に自由に参加できるようにする方向で調整することとなった。

大会の経理処理においては、両学会間で覚え書きを取り交わすこととなった。

会員、非会員の参加費の差についての議論があり、過去の大会に関わった石原先生より、現在参加費の差が大きい点については、会員になるメリットを訴求するためであるとの説明があった。

## 13. 生体医工学テキストの進捗状況， 議題I， 平田理事

出版の準備状況、必要経費に関して報告があった。Web 辞書については、サーバ更新料、生体医工学 Web ページに統合する予定であることが報告された。また、用語集の作成状況について報告があった。

次に、現在のサーバを学会の Web サーバに移行したいとの提案があった。移行後は、サイトの URL を資料等から参照する予定であることが報告された。これに関し、移行が技術的に可能かをまず検討する必要があるとの意見があり、本件承認後、検討することとなった。

最後に、担当理事より執筆に対する協力要請があった。

#### **14. 2019 年度 専門別研究会評価委員会, 報告, 議題O-1, 原口理事**

2019 年度の各研究会の活動報告が行われ、委員会による評価の結果と、今後の対応、および新年度の配分活動費案について説明があった。

会長の在任期間、再設置の期間について、指摘事項のある研究会に対しては、勧告を行うことが提案された。

評価案、2 件の研究会新設案、補助金額について審議され、原案通り全会一致で承認された。

#### **15. 2019 年度 専門別研究会活性化に向けた提案, 議題O-2, 原口理事**

活性化に向けた提案がなされた。専門別研究会の今後について、評価委員からの改善案について協議し、その結果として、いくつかの提案がなされた。

会誌、学会 HP、会員へのメーリングリストを使って、研究会の活動内容を積極的に公開することとする。

又、現在 A B2 種類ある研究会の区分を廃止した上で、研究会への補助を、研究会開催 1 回当たり 25,000 円、上限 10 万円とし、更に必要があれば 5 万円までの追加を認めることとする。

研究会の会長の任期を、1 期 3 年で 1 期に限って重任可とすることで、現状に合わせる。幹事は、その研究会の運営に対する専門性及び作業能力が伴うことから、幹事に対する重任の制限を廃止する。加えて、幹事に対する M 系 E 系の制限も廃止する。

以上で、現状との乖離が発生していた研究会に掛かる規定を修正した上で、インセンティブ運用及び大会における外部講師招聘への補助を活用しつつ、更なる研究会の活性化の方策を検討することとなった。

#### **16. 「専門別研究会規程」の改正について, 議題O-3, 原口理事**

専門別研究会評価委員会からの活性化に向けた提案(議題 O-2)に基づき、規程の改定が提案された。また、旧規定の構成や表記についても併せて整理したことが説明された。本案については、審議の結果、全会一致で承認された。また、微細な修正については、理事長に一任された。

第 59 回大会の実開催がなくなったため、会期中に開催予定であった研究会の協議会は延期とし、大会の前後に Web 開催にて実施する旨確認された。

#### **17. G Suite の利用について, 議題Q, 井村理事**

資料に基づき、G Suite の機能説明と、利用が可能となったことが報告された。メールアドレスにおける@jsmbe.org ドメインの設定について質問があり、利用可能である旨説明があった。

今後、細かい設定や利用方法を検討しつつ、早期に利用体制を確立することとなった。又、機能の追加と、これまで事務局経由で行っていた会員情報変更等の手間が軽減された旨説明された。

## 18. 生体医工学シンポジウム 2019 最終決算, 議題K, 大城副理事長

生体医工学シンポジウム 2019 の決算について報告があった。1,087,312 円の黒字となった。学会からの補助 60 万円を差し引いても、更に 50 万円ほどの黒字となった。

2019 年 3 月の理事会で承認された「事業収益に対するインセンティブ運用の取扱い」に基づいて、黒字額の半分である 543,656 円の生体医工学シンポジウムに対するインセンティブ運用の申し立てがあり、承認された。

又、今年のシンポジウムは現時点で実開催の方針で準備中との報告があった。

## 19. 入退会状況の件, 議題B, 木村理事長

入退会状況の説明があり、全会一致で承認された。

## 20. 協賛等の状況(資料回覧), 議題M, 木村理事長

他団体との後援・協賛について報告があった。

## 21. 臨床 ME 認定者名簿, 議題E-2, 中島(章)理事

新規認定者について、更新者について、資料に基づき説明があった。認定、更新について、原案通り承認された。

## 22. 臨床 ME 専門認定士認定日変更に伴う規程等変更の件, 議題E-1, 中島(章)理事

2019 年度の臨床 ME 専門認定士の新規および更新候補者のリストが提示され、全会一致で認定となった。

認定士の承認日は、これまで1月1日とした上で、後日開催される理事会で認定していた。これに対して当該資格の認定に学会と共同して当たっている医療機器学会から、承認の後に認定が行われるよう4月1日を承認日とすべきとの意見があり、両学会間の調整を続けていたが、今年度は1月1日、今後は4月1日とする事が確認された。

この変更については、規約の変更が必要であるが、2021 年度からの承認日変更に向けて今後規定の改定案を提出し、審議する旨説明がなされた。

この方針案については全会一致で承認されたが、木村理事長より、コロナウィルスの影響が2021年度の承認に影響を与える可能性があるため、認定資格の取得或いは継続を希望する方々に不利益が発生しないように、認定日変更の延期も含め、医療機器学会と連携をとるよう依頼があった。

## 23. 北陸支部長の推薦について, 議題P, 中島(一)理事

資料に基づき、北陸支部長に北陸大学の嶋津秀昭先生を推薦する旨説明があった。審議の結果、原案通り全会一致で承認された。

## 24. その他

佐久間理事より、AMED がコロナウイルス関連の補正予算を上げ、機器、システムの開発のサポートを行うことになったことが報告された。また、WHO から届いた、コロナウイルス関連の対応に関する連絡は、発展途上国への教育に関する取組協力であったことが説明された。

コロナウイルス関連としてはこの他、ECMO の製造について厚労省から、高度管理利用機器のため、すでに製造承認済みの機器に限られるとの情報、ECMO 不足、専門医、臨床工学技士に関する情報提供があった。本件に関する協力が学会としてできるかどうか、今後検討することとした。

以上